文は信なり

日本クリスチャン･ペンクラブ（略称 JCP）発行・責任者　池田勇人
事務局　〒131-0043　東京都墨田区立花 4-6-13　三浦喜代子方
TEL＆FAX　03-3616-8621　郵便振替 00170-0-161838
ホームページアドレス・http://jcp.daa.jp

あなたは価高く貴い

ＪＣＰ理事　大田正紀

関西学院大学に入学した年、教養のゼミで毎週一冊の本を読まされた。夏目漱石からドストエフスキーまで、読了するだけでも一仕事。それを要約して、自分なりの感想を纏めるというのは至難の業で、みんなは懸命に食いついて行った。その中の一冊にＶ・Ｅ・フランクルの『夜と霧』がある。

ナチス・ドイツの強制収容所から奇跡的に生還することの出来たこの精神科医の人間省察の記録には、「告発しない」思想が貫かれている。四十年前のジャーナリズムでは、正義のためなら、どんな過激な抵抗も許される、そんな無責任で傲慢な思想がもてはやされ、僕もその尻馬に乗って生きていた。

フランクルは、ナチス・ドイツを糾弾する言葉を安易には発していない。解説の哲学者バートランド・ラッセルが「人類に対する罪」としてナチスの悪行を列挙しているのと対照的だ。「水に流す」のではない。決して忘れないで、むしろ日々心に刻んで生きる。「生きる意味」「苦悩の意味」の回復こそ、生き残った私たちの責務だ。生きる価値は、人間が決めるのではない。与えられたいのちにどのように向き合ってゆくのか、むしろ神に対する責任性を問うた。「態度価値」という言葉も、フランクルに初めて教わった。ほんとうに人間が告発を捨て、人間に仕える道を取るためには、キリスト教の信仰に立つほかない。そう、水谷昭夫教授は力説された。そして四年間の間に多くの学友が次々とクリスチャンになっていった。自己否定を含まない告発は悪魔の業だ。真面目に生きようとする人間には、苦悩があるものだ。イエス様も言っている。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。 悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。」（マタイ五・３、４）と。

今、日本では毎年三万人以上の人びとが自死を選ぶ。しかも働き盛りの壮年が最も多いという。どんなに自分の無価値性に悩んでいるのかと思う。

「わたしの目にあなたは価高く、貴くわたしはあなたを愛し」（イザヤ四三・４）ている。あなたの人生には意味がある。価値があると、創り主は語っておられる。神の愛は、御子イエス・キリストを遣わされたことに極まっている。

ＪＣＰ関東グリーン・ジョイフル

初夏の一泊研修会（潮来）

――主題･私と聖書の人々――

2009年5月25日～26日

―＊プログラム＊―

☀２５日（月曜日）

◎１１時半～１２時　　賛美リーダー・山本千晶姉

はじめに　　三浦喜代子姉

開会礼拝　　司会　浅見鶴蔵兄

メッセージ　池田勇人師『神聖な文字の記憶』

出エジプト 39：30～31

オリエンテーション　長谷川和子姉

◎１２時～１時　　昼食

◎１時～３時　　集会その１　司会　　島本耀子姉

茨城のキリスト教『イコン画家山下りん』駒田　隆兄

私の文章作法・・・最近学んだこと　長谷川和子姉　島田裕子

山本披露武兄

私と聖書の人々・・浅見鶴蔵兄　　西山純子姉

グループ作り・・・作品配布（リーダー　駒田、山本、西山）

◎３時～　入室

夕食までくつろぎの時（　戸外散策、　団らん、　入浴など）

６時～７時　夕食と交わり

◎７時半～9 時　集会その２　司会　　長谷川和子姉

文章上達法を探る・・・三浦喜代子姉

グループでの作品合評　１回目

☀２６日

◎７時半　朝食

◎９時～１１時半　　集会その３　司会　西山姉

グループでの作品合評

作品の講評＆閉会礼拝　池田師

おわりに　　三浦姉

解散

春の潮来で

堀川きみ子

春のグリーン・ジョイフル潮来研修会に参加した。テーマは「私と聖書の人々」。原稿用紙三枚が書けず、私は下書き程度のものしか持参できなかった。

開会礼拝で池田師は「神聖な文字の記憶」出エジプト三九・３０から話された。

学びはイコン画家を駒田兄。長谷川姉、島田姉、山本兄が文章を書く時に心掛けていること、日常生活での工夫など語られた。

三浦姉の『文章上達法を探る』の中で、三浦姉が今回の文章を五十回も推敲されたと語られたのには驚いた。

続いて例文作成の学びなどもあった。

グループの作品合評が二回。各人の感想、良き提案などがあり、私は出席して良かったと感じた。

プログラムの合間の語らい、食事と交わりに兄姉たちの努力と熱意を頂き、私も大いに励まされた。

潮来のあやめと蓮の花。帰途に眺めた霞ヶ浦と筑波山、池田師の故郷を想った。

あやめの園

北川静江

五月晴れのさわやかな日、潮来に遠征して行われた一泊二日の学び会。散策後、緊張のうちに開会礼拝がもたれた。午後、茨城におられた「イコン画家、山下りん」のこと、イコン絵画を見ながら研究発表が行われ、茨城にこういう人がおったのかと感動した。

舌鼓を打った夕食の後、有志による普通では受けられない讃美指導は、楽しいひと時であった。

三浦姉の「文章上達法を探る」の学びでは、与えられた熟語を使って短文を作る練習があった。頭をひねり、順番に答える。楽しみと緊張とがあり、脳の体操になった。

その後、今回の中心テーマであり、宿題の「私と聖書の人々」について、小グループになり、本人が読み上げ、順々に遠慮せずに批評し合った。素晴らしい学びであった。

翌日は最後のまとめ、池田理事長が参加者一人ひとりの文章を、批評、指摘、ご指導してくださった。私一人童話で恥ずかしかった。解散前にあやめ咲き競う太鼓橋に並んでパチリ。皆さんの満足度が写真に現れていた。私は数年ぶりの参加であったが実り豊か、ハッピーだった。

中部・関西夏期合同研修会

プログラム

８月５日〔水〕
１１時３０分　受　付
総合司会　坂口良彬
１２時　昼　食
１３時　開会礼拝
奨励　玉木功牧師
１４時　主題講演「主のいやし」
島しづ子牧師
１５時　３０分休憩
１５時３０分　作品講評
１７時３０分　夕　食
１９時　講演　大田正紀先生
司会　植田とも子
２０時　講演　久保田暁一先生
８月６日〔木〕
９時　朝　食
講演　今関信子先生
司会　水谷節子
１０時　証し　加藤恵理子
１０時３０分　作品講評〔加藤姉作品〕
１１時　証し　藤本優子
１１時３０分　閉会礼拝
奥村直彦牧師
１２時　昼　食
１３時　解　散

恵みと感謝の時

加藤恵理子

ペンクラブに入会して四年目となる。昨年に続き、関西ブロック、中部ブロック合同の研修会に参加することができた。

文章を書くことは孤独な作業である。自分を見つめ、イエス様を見上げ、原稿用紙に向かう。ひとりぼっちの作業ゆえ、ペンクラブの方々に会うとほっとする。一人ではないと思う。勇気が湧いてくる。研修会では、私の拙い文章に的確な批評やアドバイスをいただいた。真摯に受け止め、今後の作品にいかして行きたいと思う。

研修会で今関先生に宿題を一ついただいた。

『トマト』を題材にした童話作りである。今、その作品に取り組んでいる。『嬉しい』宿題である。

梅雨明け直後の暑い名古屋まで来て下さった関西ブロックの皆様に感謝し、会場探しから会の運営まで全てを引き受けて下さった坂口兄にお礼を言いたい。感謝。

合同夏期研修会

水谷節子

名古屋市で八月五日の午後、島しづ子牧師の主題講演「主の癒し」で会が始まりました。

参加者は関西も中部も各八名でしたが、中部は玉木功牧師をはじめ会員全員が参加しました。

久保田暁一先生など関西の四名の先生方がキリスト教と関わりのあった作家や、初期の女性宣教師の働きを語ってくださり、信仰者の跡を辿ることの意義を改めて思いました。

文章の書き方のご指導では、私は原稿用紙三枚に三つあかしを順番に並べて書きました。

串刺しの証し三兄弟だそうです。やはり一つのことを深めて書くべきだったと思います。

解散後、希望者で「ノリタケの森」の陶磁器の絵付けの見学をしました。

会の開催前に小川恵子姉と私たちが会場の下見をしたことも楽しい思い出です。

主の恵み豊かな学びの時を与えていただき感謝しています。

研修会の講演要旨と学んだこと

藤本優子

このたびの研修会で人間への洞察を深くされた。

主題講演された島しづ子牧師は、三人目の子供さんが誕生する一ヵ月前に牧師である半身が急死、三子は百日咳から重度の障害を受け、苦難の日々を通って来られた。「私は父がいる子のようにりっぱに育てなければいけない。男の牧師のように立派にしなければならないと、この世の階段を上り始めた」。島牧師の述懐に人間の実相が現れている。

即ち、主に在る生涯に入れられている人でさえ、人間的価値観に基準を置いてしまうことだ。

その後、島牧師はジャン・バニエとの絶妙なる出会いから、島牧師でしか語ることのできないお証しに至る日々を歩まれた。

文書伝道に召された者たちの集いは、教会では味わえぬ深い喜びがある。私も「神さまの働きが思わぬところで実っている」ことを忘れないで、手を休めることなく書き続けよう。

研修会開催のために御愛労下さった坂口兄に感謝申し上げたい。

大田先生は、現代の日本文学に大きな影響を与えたキリスト教との関連から、明治の文豪、鴎外と漱石を取り上げて講演された。

日本のクリスチャン人口は一パーセントにも満たないのに、日本文学を築いた人々の中に多くのキリスト教関係者がいるのは驚くべきことである。初期の文学者たちには贖い主の信仰と復活信仰がなかった。この欠落こそが大きな問題だったのではないか。

鴎外は、我々の人生が永遠の眼差しの中で見つめられているということに気づいていた。鴎外の娘も、「父の諦念はキリスト教の断念に近い素晴しいものがある」と語っている。漱石は、人を愛するとはどういうことかを真剣に考えた初めての人であり、近代社会の中に生きる隣人愛を書いている。

遠藤周作についても触れられ、『深い河』はクリスチャンにとって非常に切実な問題を突きつけ、我々の信仰に背くような思いを与えるものである。キリスト教から縁遠い人たちから関心を持ってもらえるかも知れないが、本人はキリスト教中心の包摂主義であり多元主義ではなかったであろう。宗教多元主義はキリスト教を内部から崩壊させる最も危険なものである。

今関先生は資料収集と取材秘話から、それらがどのように作品に生かされていくかを話された。

作品講評では、「目に見えるものを写真のように書くのではなく、最も言いたいことをどこに定めるのか。読者に感情的に伝わるように書く」ことを教えて頂いた。

研修会第一弾の久保田先生は、文学作品を徹底的に読んで、自分の生き方に関連して一貫した研究テーマを持ち、キリストの教える真実は何かを生涯かけて突き詰めていくようにと力説された。

私たちも自分に直面する問題をキリストに集中して、キリストからの語りかけを聴き、それぞれに賜った人生と人格の独自性を深めていきたいと大いに励まされた。

新入会者のひとこと

――この一年余、会員の紹介やＨＰを通して数名の方々が入会し、喜んであかし文章に励んでおられます。皆さまのフレッシュなお声をお聞きください。――

ペンクラブに入会して

有賀 麗子

今年の一月二十四日、ＪＣＰの例会に繋がることができ、入会させていただきました。

その時から八ヶ月が過ぎ、作品は一つだけですが、書くことが出来ました。

そのことを切っ掛けに、自分の今までの人生を、思いつくまま書き出す作業が始まりました。

母の胎の中で組み立てられる前から、私のことを知っていてくださる主に委ねつつ、証し文をとうして、その神様を伝えることができると、本当に素晴らしいと思いました。

イエスキリストの十字架をうけて与えられる、喜びと感謝を、ＪＣＰの皆様と文章の学びの中で分かち合えますこと、また、ご指導いただきますことを心から感謝し、御名を崇めます。

蛇を踏んだ朝

松下　勝章

自分の無意識を覗いてみると、「気が小さい」という言葉がいたる所に刻まれている。忌まわしい蛇が、小さい頃、周囲の人間のさりげない言動を使って、私の中に入れ込んだ意識だ。実際、その頃の写真は、冴えない。上目使いにカメラを見つめ、母に寄り添って、指を銜えているようなポーズが多い。何かにつけ大胆な姉とは対象的だ。よほど、この世が恐ろしかったらしい。不釣合いな響きを与える、名前の中に仕舞い込まれた「勝」の字は、どうしたことか、おせっかいな叔父が銭湯で父に吹き込んだらしい。母にその意味を訊くと、「男は勝たなければならない。人に負けるな。」と諭された。そのため、悲劇なことにかなり無意味なプレッシャーを感じながら出来損ないに育った。

本来の意味は文学青年だった叔父の一念、「章（ことば）で以って勝つ」なのだと知り、主の憐みを頂いてからは、「弱さの中に与えられる主の強さ」は時空を超えるという事実の気づきに、慰めと祈りと喜びと感謝を感じている。

……突拍子もないことだが、奇遇なことに今朝、通勤途上で蛇の屍を踏んだ。

山形から

横山　美佐

十月で四七歳になる横山美佐です。

十五歳から教会に通い始め、十六歳で受洗しました。

長く母教会（白鷹）と東京の教会でピアニストとして仕えてきました。

二十年ほど、適応障害を患っています。

病気になる前は東京に住み、クリスチャン新聞で働いていました。

英、中国語の学びが好きです。

日本クリスチャン・ペンクラブに入って、初めて『あかし文章』を学ばせていただいきますが、もともと、文章を書くことは好きですので楽しみです。

八月いっぱいかかって、送っていただいた『あかし文章入門』を読み終えました。とても勉強になりました。

一人暮らしをしていますし、東京からは遠方ですし、経済的事情もありますから、先のことはわからないものの、皆さまとともに集まって、学ぶ機会が与えられますよう、主にお祈りしています。皆さまもお祈りしてください。

どうぞよろしくお願いします。

新たな一歩を踏み出して

土屋　理絵

ペンクラブの門戸を叩いたのは、受洗して間もない昨年の初めだった。いきなり「ゴスペルに出会って」と自己紹介した新参者を、みなさんは「ウェルカム！」のあたたかな笑顔で迎えてくれた。

同じテーマで書く証し文章は、毎回大きな学びと恵みが与えられている。信仰の大先輩方の書いた文には私にはない重みや深みがある。その度ペンクラブとの出会いに感謝の気持ちを抱いてきたが、最近になってまた改めてそれを実感している。

つい先月からゴスペルアーティスト師匠の薦めで作詞作曲を始めた。賛美の歌詞は、もちろんみことばが基本。それでなければただのポピュラーソングとなってしまう。「ゴスペルは詞が命」という師匠の元、何度も詞を書き直しながら私は新たな一歩を踏み出した。

嬉しいことに、与えられたばかりの曲がＣＤ化されるという大きな祝福をいただいた。

ペンクラブとの出会いがあってこその神様からの祝福だと、改めて感謝している。

書くことは生きること

澤谷由美子

牧師だった夫が突然脳内出血で召されて七年が経った。何によっても埋められない心の空洞を埋めてくれたのは、想い出を文章にして書く作業だった。昔の人々が漆黒の闇夜に点在する星々をつないで物語にし星座を生み出したように、私も思い出をつないでマイストーリーをつくってみた。

折良く「ゆうゆう」という婦人雑誌が自分史大賞を公募していたので一晩かけて一気に原稿用紙二十枚書いて応募した。それが佳作で入選し、主人と私の足跡が文章と写真になって全国で読まれることになった。身体中が震えるような喜びの体験だった。

マイストーリーと思って書いた文章は、実は神さまの恵みのストーリーだったと後に気付いた。書くことは生きること。生きることは書くこと。何故なら背後で働いておられる神様ご自身の愛を黙っていることは出来ないからだ。

三十歳で入会した「クリスチャンペンクラブ」に今年また戻ってきた。受けている祝福を、また越えてきた挫折や苦闘、涙の数々を、書くことによって昇華させてゆきたいと心から願っている。

ペン・クラブに入会して

山本千晶

一年前の九月、友人に誘われてペン・クラブに入会した。以来、讃美の歌声に込める思いは深められてくる。

クラブの方のあかし文に触れられることは大きな恵みだ。お一人おひとりの人生の恵みを知ることができる。あかし文によって今までの私に見えていなかった物事が見えてくるとき、いかに自分がゆるされ愛されているか新たな気づきが与えられる。ペン・クラブへ導いてくださった神様の愛が私に迫ってくる。

神様のご計画の中で入会して一年を経た。多くのあかし文に出会いながら私の心は広げられ、さらに神様の広く深い愛を求め、その愛に触れたい思いへと高められてきている。

あかし文によって賛美の心が導かれている。

心の奥に賛美の根が力強く伸びている。

今ここに、すべての出来事、出会いを恵みに変えてくださる神様をあかしする歩みに、さらなる導きを期待している私がいる。

各ブロックから

中部ブロック　坂口良彬

今年は、文集「屋根」の完成予定を十二月にする予定である。

十月、十二月の例会を充実したものとして、十二月には、初めての試みであるが、玉木師からクリスマスの奨励をいただく計画を持っている。

なお、これは先の話ではあるが、三浦綾子の「銃口」を学び終えたら、以前学んだことのある「井上ひさしの作文教室」を再び取り上げて、文章の基本を学び直したい。

「屋根」については、昨年「分けて欲しい」という人が二、三あったため、今年は五部プラスし、そのような動きに対処して、将来の会員増につなげていきたい。

関西ブロック　長原　武夫

◎九月例会　九月十九日　於・吹田市
講師・大田正紀理事
学び・三浦綾子『塩狩峠』
参加者・八名　書記・藤本優子姉
九月二十一日付け藤本姉のブログで講演を報告している。後日、例会報告をする。

◎十一月例会　十一月二十一日
於・大津市
講師・大田正紀理事
「関西ペンの声」十六号印刷発行予定
今後の活動方針を決定する。

◎関西ブロックは講師陣に恵まれていて、講座、講演、セミナーを開催している。会員は出かけて行き、参加することも学びとして大切と思われる。

関東ブロック　三浦喜代子

九月二六日
定例会　お茶の水で
礼拝『生きた手紙の書き方』池田師
シリーズ『私の遺言』
秋の詩、秋のさんび紹介
十月二四日　童話エッセーの会
十月三一日　詩歌の会
十一月二六日
クリスマス礼拝＆祝会
朗読劇を全会員参加で上演
来年度の計画は今年中に委員会で検討立案する。

昨年から発足した運営委員会が順調に機能している。種々の働きがバランスよく分担され、主にある一体感とＪＣＰへの責任感が強められている。感謝。

本部事務局より　三浦喜代子

今年二回目のレターをお送りします。各ブロックがそれぞれ独自の企画で例会を開き、一泊研修会も開催できました。関東は五月に、中部・関西は八月でした。

新しく入会される方が増えています。ＪＣＰホームページが大きな役割を果たしています。ＨＰからの問い合わせ者も増えています。さらにサイトの紙面を充実させていきたいと願います。

新入会者
澤谷　由美子（千葉県）
横山　美佐（山形県）
松下　勝章（埼玉県）

○九年も終わりに近づきました。まだ本年度年会費未納の方がおられます。各ブロック事務局は会員の状況を把握して、早急に処理してください。

今年はプロテスタント宣教一五〇年の意義深い年です。キリスト教各界で歴史を振り返り掘り起こす作業が行われています。ＪＣＰも二〇一二年には創立六〇周年を迎えます。《温故知新》を玩味しています。
（Ｋ・Ｍ）